

形

forme

特集

心に届く形とは？

安田侃の彫刻をめぐるイタリアの旅



日文のWebサイト

日文 🔍



※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。
令和7年(2025年)度版中学校美術科内容解説資料として扱われます。



心が動く、その先へ。

日本文教出版

特集

心に届く形とは？

安田侃の彫刻をめぐるイタリアの旅

ピエトラサンタ駅にある安田侃《妙夢》。

はじめに

「forme」は広く現代社会の要求に応える美術教育の理論と実践の紹介を目的として一九五六年に創刊されました。以来六〇年を超える長きにわたって、美術教育に寄り添って刊行を続けています。「forme」という書名は造形と人間形成をシンボライズしたものです。子どもたちのための美術教育に取り組んでおられる先生方、美術や造形にかかわるすべての方々、そして保護者の皆様のために、これからも、よりよい美術教育を目指す道標となる内容を目指していきます。

Index No.335

- ③ **特集 心に届く形とは？**
・安田侃の彫刻をめぐるイタリアの旅
- ⑨ **ABC PICK UP**
阿部宏行
- ⑩ **学びのフロンティア（小学校）**
「窓の先」の世界は自由に 杉山 聡
- ⑫ **村上センセイの 教科書利用のススメ**
| 番外編 | 令和3年度版中学校美術の教科書、どう使う？
- ⑭ **まず見る**
| 第38回 | かくして見る 成相 肇
- ⑯ **生徒作品解説 私の見方**
河西栄二

編集・デザイン：東京ビンボン
表紙写真：佐々木 信
[p.3-8 特集]
文・編集：来嶋路子
撮影：佐々木 信、来嶋路子

ページ下部に、それぞれのコーナーと校種の関連性の強さを表示しています。各企画は小・中・高全ての校種に関連がありますが、特に関連の強い校種を大きくしています。

例： | 小 | 中 | **高** | 特に高校に関連の強いコーナーを表します。



アンケートのお願い

よりよい広報資料をお届けするため、先生のご意見、ご感想を右の二次元コードからぜひお聞かせください！



聖なる石の街

イタリア中西部トスカーナ州ルッカ県にあるピエトラサンタは、「聖なる(Santa)石(Pietra)」という名の街。アプアーネ山脈の麓に位置する良質な大理石の産地であり、街には石を加工する工房が多数ある。また通り沿いにはいくつもの画廊が軒を連ね、ロータリーには彫刻が点在している。ここは彫刻の街である。

その玄関口となる駅前広場には、安田侃の大理石彫刻《妙夢》がある。山のようなフォルムで中央に円い穴が開けられたこの作品は、東京ミッドタウン（六本木）やJR札幌駅などにも設置されているが、それらとはまた違った印象を受ける。彫刻の穴からは建物と山並みが見渡せた。まるで街全体を背負って彫刻が立っているかのように、直感的にこの街に安田の彫刻は欠くことができない存在であると感じられた。

約50年、安田はピエトラサンタにアトリエを構えてきた。この街のドゥオーモ広場では、およそ30年前から毎年彫刻家の個展が開かれるようになったが、その始まりを飾ったのは安田の彫刻だった。イタリアのアートの発信地として重要な拠点であるこの街で、出身地や国籍という「区分け」を超えて、安田の作品はなぜ愛され受け入れられてきたのだろうか？ その問いを胸に旅を始めた。

ピエトラサンタから約20キロ離れたカッラーラも大理石の産地として有名。探掘場を見学できるツアーに参加した。白い大理石が見えている山肌。



ミケランジェロの遺作に 出会って

安田は北海道の大学で彫刻を学び、1970年に25歳でイタリアに留学した。石を彫るきっかけとなったのは、ルネッサンス時代の彫刻家・ミケランジェロの遺作とされる《ロンダニーニのピエタ》に出会ったことだという。ミケランジェロは均整のとれた肉体美を現した彫刻を数多く制作したが、未完のこの作品はそれまでの表現とは異なる方向性を示している。この作品によって「精神を形にした彫刻、時代を超えて残る彫刻を創りたいと思うようになった」と安田は語っている。

安田がインスピレーションを受けたミケラン

感性の時代の彫刻

安田はイタリアで石の彫刻に取り組み、ピエトラサンタの石職人であるジョルジョ・アンジェリの工房に縁がで、1974年にこの地にアトリエを構えた。日本とイタリアを往復しながら制作を続け30年あまりが経過したとき、安田はフィレンツェでミケランジェロの彫刻と対峙することとなった。2000年に安田の彫刻をこの街の計8箇所に設置する「街における彫刻」展が開催されることとなり、ミケランジェロのダビデ像があったシニョリーア広場（現在はレプリカが置かれている）も会場の一つとなった。

開催前に行われた記者会見の席で、地元新聞記者から「ミケランジェロのダビデ像などの傑作であふれるフィレンツェに、現代抽象彫刻をわざわざ置く意義はあるのか？」と問われたという。そのとき、展覧会の主催者の一人で後に文部大臣を務めたアントニオ・パオルッチがこう答えたそうだ。

「安田の作品は知識がなくとも感じる事ができる。21世紀は感性の時代なのです」

世紀の変わり目に投げかけられたこの言葉には、どのような意味が込められていたのだろうか？ パオルッチがこの展覧会のカタログに（歴史的広場にある）モニュメントと安田の彫刻は、謙虚に小さな声で対話をしている。それを理解するためには、空っぽの頭と透明な心、そして長

ジェロという彫刻家は、イタリア人の心に今も鮮明に息づいていることをこの旅で知った。

例えばピエトラサンタにはミケランジェロという名のカフェがある。この建物でフィレンツェにあるサン・ロレンツォ教会のファサード（建築の正面部分）を完成させるという契約書がミケランジェロが交わしたこと、この名前がついたそうだ。

さらには、同じ大理石の産地でピエトラサンタから約20キロ離れたカッラーラで、大理石の探掘場の見学をしたとき、その内部を案内してくれた女性には、「この山の裏側ではミケランジェロも石を切り出した」と、まるでその現場に立ち会ったことがあるかのように語った。人々は暮らしの中で、その彫刻に触れるだけでなく、ミケランジェロという人間の気配も感じとっていた。



◀ミケランジェロの遺作《ロンダニーニのピエタ》
（スフォルツェスコ城、イタリア）。
写真提供 ユニフォトプレス



▲ピエトラサンタにあるボゼッティ美術館には、彫刻の制作過程でつくられる石膏の原型が収集されている。イサム・ノグチやヘンリー・ムーアなど数々の彫刻家がこの街の石職人と協働しながら作品を制作した歴史を知ることができる。

安田侃《無意識の門》。安田侃野外彫刻展「FORMA SUONO ANIMA」より(2023)。
展覧会は好評を博し会期が半年延長され、
2025年3月15日まで開催される。



人間の根源を見つめる

旅の途中、ピエトラサンタで安田と話す機会を得た。石職人のアンジェリとともに朝から日暮れまで、ずっと石と向き合い制作を続けている。そしていま、知人のイタリア人が語った言葉がきっかけとなって新たな作品に取り組もうとしているそうだ。

知人は安田に向かってこう問いかけたという。「あなたの作品には『アルモニア』がある。世界では戦争が起こり解決の糸口が見えない状態が続いている。なぜ人類は争わなければならぬのか、なぜこんなに悩み苦しみが続く



◀フィレンツェ「街における彫刻」展(2000)。
Photo by Danilo Cedrone

のか。それを互いに話し合うための契機になるような、人間の根源に訴える彫刻をつくることはできないだろうか？」
「アルモニア」とは「バランス」や「調和」のことを指すのだという。この言葉を聞いてハッとしました。感性の時代である今だからこそ、真の調和が必要とされているのかもしれないと思ったからだ。

見えない手を広げて

安田と会った翌日、ピエトラサンタから車で20分ほどのところで開催されていた安田侃野外彫刻展を見た。ヴィアレッジョの海岸通りとトッレ・デル・ラーゴ・ブッチーニにある湖畔広場に合計14点が設置されていた。

トッレ・デル・ラーゴ・ブッチーニは、かつて作曲家ジャコモ・ブッチーニが暮らした場所。今年が没後100年にあたるのを記念して野外彫刻展が開催され、さらには安田が舞台美術を手がけ、20年以上各地で公演が続いているオペラ「蝶々夫人」の上演も行われた。

オペラ上演前、湖畔にあった《無意識の門》をくぐる男女がいた。その姿はとても自然な行為に映った。その傍で地元の楽団の演奏が始まった。日暮れの時間。彫刻もそこにいる人も、そして音楽もすべてが夜に溶け込んでいく

ように感じられた。安田はこの野外彫刻展を「FORMA(かたち) SUONO(おと) ANIMA(たましい)」と名付けた。その3つが境界なくそこにあった。



▶トッレ・デル・ラーゴ・ブッチーニの湖畔にある野外劇場ではブッチーニ・フェスティバルが開催され「蝶々夫人」が上演された。

Photo by Taku Yasuda



ABC PICK UP

4コマ漫画で、子どもや図工のことを学べるABCシリーズ。
ここでは、同シリーズから毎号のテーマに合わせた内容を
選んでご紹介します。

今回は「指導のABC」p.38をピックアップ！

聞くことの意味 ～もてなしの心～

日頃の生活の中で「この人の対応、感じいいな」と、そのもてなしに感心する
ときがあります。この誠意を感じる対応の要素に、笑顔や話し方、顔の向きなど、
いくつか発見することができます。誠意をもって対応していると感じさせる第一
の要因に「話を聞いてくれる」ということがあります。

教室の教卓で事務仕事をしていて、子どもが近づいて話しかけてきたときに、
つい目も顔も向けずに対応してしまうことはありませんか？ 職員室の机で仕事
をしていて、同僚の先生が話しかけてきたときや来訪者に対しても、誠意をもっ
て接していますか？

「立って相手の話を聞く」というのは、相手に対して誠意をもって対応する、
という身体で発するサインです。言葉や表情だけでなく、しぐさや態度も相手に
伝える大きな力になります。これは指導に生かすことができます。誰に対しても、
もてなしの気持ちで、誠意をもって接することです。そうすると、相手の気持ちも
変わります。互いが「聞くこと」の大切さを実感する瞬間でもあります。

※このコーナーは、ABCシリーズからピックアップしたページを基に、再編集して掲載しています。

ABCシリーズのラインナップ



ABCシリーズは公式Webサイトで全編をお読みいただけます。
また、冊子をお送りすることもできます。



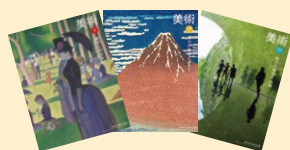
著者紹介
あべひろゆき
阿部宏行

1954年生まれ。元北海道教育大学教授。中央教育
審議会 初等中等教育分科会教育課程部会 幼児教
育部会委員、同芸術ワーキンググループ委員（平成
29年）、文部科学省「学習指導要領等の改善に係る
検討に必要な専門的作業等協力者主査（小学校図
画工作）」（平成29年）などを歴任。

小・中・高を通して「図画工作・美術」の教科書をつくっているのは、日文だけ。これからも「図画工作・美術」を応援します。



小学校図画工作科教科書



中学校美術科教科書



高等学校芸術科美術教科書



▲イタリアのアトリエで制作を行う安田侃。 Photo by Nicola Gnesi

彫刻を取り巻く自然や環境、そして人が互
いを受け入れ穏やかにそこに在ること。《無意
識の門》や駅前広場にあった《妙夢》は、中央に
穿たれた空間に人や自然や空気が在ること
で完成する。また鉱物が結晶化した形のように
も、生命の源である胎児のようにも見える《意
心帰》は、つい触ってみたくなるそんな肌合い
とフォルムを持つている。特に子どもたちは、
吸い寄せられるように駆け寄り、よじ登った
りほほをすり寄せたりしている。安田の彫刻
はフォルムの特徴や自己のコンセプトを主張
するのではなく、寡黙に佇み他者に見えない
手を広げ受け入れているのだなと感じられ
た。これこそが調和の形なのではないかと私
には思えた。

イタリアを後にするとき、自分の中に何か温
かな気持ちが湧いていた。日々、自然災害や戦
争といった目を覆いたくなるニュースが流れ
る時代にあっても、アートが希望の光を灯すこ
とのできる可能性を秘めていると確かに感じ
られたからだ。私はあの感覚を忘れない。安田
の彫刻に手をそっと置くと、その肌合いの滑
らかさとひんやりとした冷たさが心の奥底に
ある何かと静かに響き合い、安らかな気持ち
を与えてくれることを。

COLUMN

誰もがこころを広げられる
芸術広場

「安田侃彫刻美術館
アルテピアッツァ美唄」

安田の故郷、北海道美唄市にあるアルテピ
アッツァ美唄は、風景と一体となって佇む彫
刻が鑑賞できる場所。一時は炭鉱で栄え、その
後衰退していったこの土地の記憶と人々の思
いを受け止め、「今を生きるすべての人が、無
心に、自由に、思い思いの時間を過ごすための
芸術広場」となることを願い運営が続けられ
ている。現在、30年以上の時を重ね人々の「心
のふるさと」として愛されている。



安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄

北海道美唄市落合町栄町 <https://www.artepiazza.jp>



を丁寧に確認していきます。このときも、安全に切ることを大事にしつつ次につながるように、「どんな窓にしようか？窓の中に何があると思う？」などの声をかけながら指導します。

画用紙の中にいろいろな窓を開けていく活動では、「面白い窓の並び方だね」「横開きではなくて、縦に開くんね」など、子どもたちの工夫や形の面白さを言葉のシャワーを浴びせるようにどんどん紹介していきます。子どもたちは手を動かしつつ、しっかりと聞いているので「自分もやってみよう」

「窓の先」の世界は自由に まどをあけたら

低学年・工作

すぎ やま さとし
杉山 聡先生（新宿区立落合第六小学校）

「違う窓にも挑戦しよう」「だれもつくっていない形を見つけよう」という雰囲気が出てきます。

手立て 3 平面と立体を選べる設定に

ある程度窓ができたところで、つくった窓を鑑賞し合いながら、窓の世界やどんな建物にするかを考える時間を取りました。その際、表し方は平面と立体から選べる設定にしました。この題材では窓というテーマと使用する用具が決まっています、子どもが表現を選べる場合は「色の選択」や「窓の中にあるもの」になります。1年生の頃から子どもたちと過ごし、その経験や発想の広がりを見てきましたので、最後の表し方まで限定するのは表現の幅が少なく感じました。

なかには、切った形に光を当ててできる影の面白さに関心をもつ子どももいました。切った形のよさを影という視点で味わっている子どもに対して、その後の表現を平面に限定してしまった場合、本人にとっては本意であり、大事な気付きを追求する時間にはなりません。また、切った形をどのようにまとめるのかを教師が決めるので

授業計画



カッターナイフを使い、
窓を開く仕組みから
思い付いたことを
楽しく表す。

● 時数：4 時間

● 材料・用具

カッターナイフ、カッターマット、カラー工作用紙、色画用紙、ボール紙、木工用接着剤、色鉛筆、ペン、はさみ、のり など

● 活動の流れ

1次

・カッターナイフの使い方を知る。
・色画用紙などにいろいろな形の窓を開けていく。

2次

・折って立てるなどして、形をつくっていく。
・思い付いたことを付け加えたり
かき加えたりする。
・友人と作品を見合う。

題材の目標・評価規準は
こちらを参照ください ▶



2年生が紙という材料の新たな一面に気付けることが
本題材の魅力だと話す杉山先生。
子どもたちと一緒に窓の形や開き方を考えることから授業が始まります。

手立て 1 「つくってみたい窓」を思い描く

本題材は「窓を開く仕組みから思い付いたことを楽しく表すこと」と「カッターナイフを安全に使うこと」が同時に求められる題材です。用具の安全な使い方はもちろん大事ですが、そちらに力を入れ過ぎると同じような窓ばかりになってしまう。導入では、子どもたちと一緒にさまざまな窓の形や開き方の例を挙げながら「こんな窓があったら面白いね」とイメージを広げていきます。子どもたちの中に「こんな窓

手立て 2 「挑戦したい」を醸成する声かけ

カッターナイフを使う際は、必ず
演示します。持ち方、渡し方、切る
ときの角度や紙を押さえる手の位置、
直線・曲線の切り方、窓が開く仕組み、
けがをしないための方法や約束など

Message



多様な視点を得て 「わたし」を更新していく

子どもたちには、いろいろな
見方で物事を見ることができ
ようになってほしいです。つく
れると思っていなかった形を
実現できた「自分の視点」、
気にならなかった作品を友だちが
ほめてくれた「他者の視点」、
片付けのときに流れた絵の具が
きれいだった「違う価値での
視点」、釘打ちしてみたらうま

くいかなかった「やってみて
の視点」など多様な視点がある
ことに気付く、楽しみ、共有で
いることが図工の醍醐味です。
物に触れて、他者と話し合っ
て、違う生き方に触れて、社会
とつながって感じることで「わ
たし」という存在は更新され、
豊かに生きることにつながって
いくのだと思います。



*本題材は、令和6年度版 図画工作科教科書1・2下 p.40-41に掲載しています。

学びの実感と深まり

2・3上表紙、P.2-4「学びの実感と深まり」



ねらい

技法や背景、先人の表現などを知ること、
学びを実感し見方・考え方を深める

単純な形に見えただけ、
とても繊細な表現を
しているね。

版画にすることで、
たくさんの人に観てもらおうと
考えたのかも。

展開

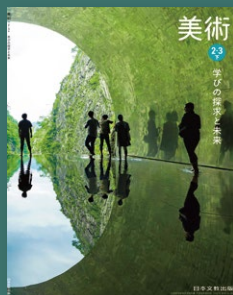
1 P.3-4の4枚の富士山の絵を鑑賞し、描き方や印象の違い、自分の好きな作品などについて考える。

2 それぞれの作品が、多版多色木版画、墨、絵の具など異なった材料や技法で描かれていることを知り、それぞれの表現の特性やよさなどを感じ取る。

3 表紙の作品の線や色彩の表現に着目し、浮世絵版画が絵師、彫師、摺師の高度な技術によりつくり出されたことを理解し、作品に対する見方を深める。作品をよく見ることを基本にしつつ、技法や背景などを知ることによって学びが深まることを実感する。

学びの探求と未来

2・3下表紙、P.2-4「学びの探求と未来」



ねらい

美術の可能性や
社会とのつながりについて考えを深める

日頃忘れがちな
切実な環境問題について、
見るだけでなく、体感できるように
作品がつくられているな。



展開

1 P.2-3の「Shadows travelling on the sea of the day」を鑑賞し、この作品の中に立ち入った自分をイメージし、どんな感じがするかを考える。

2 上下に砂漠が広がるイメージから、環境問題に対する作者の思いや表現の工夫を感じ取り、美術が環境問題などを社会に訴える力や美術のもつ可能性について考える。

3 表紙作品やP.2-4の作品を鑑賞し、それぞれの作品が何を表現しようとしているのかを読み解く。美術は表現を通して目に見えない気持ちやメッセージなども発信できることを実感し、美術の可能性や社会とのつながりなどについて考えを深める。



むらかみ ひさのり
村上 尚徳

令和7年度版中学校美術教科書代表著者。元IPU・環太平洋大学副学長。元文部科学省教科調査官。

教科書冒頭のオリエンテーションは、各分冊を学ぶ際に、発達の段階に応じてどのような点を重視すればよいのか、学びの姿勢や重点などを示しています。

1学年では、形や色彩などによる印象やイメージの違いなどに着目させ、造形的な視点を意識することで見方・感じ方を広げる。2・3年上では、知的な理解力も高まってくるので、ほかの作品と比較したり技法や背景などについての知識も活用したりすることで学びを深める。2・3年下では、美術は目に見えない心情を表したりメッセージなどを社会に発信したりできることを理解し、鑑賞や表現を探究していく。このように3年間、どのような生徒を育てるのか、意識しながら指導することが大切です。

3年間でどのように
生徒を育てるのか

村上センセイの教科書利用のススメ

番外編

教科書の著者である村上尚徳先生と全国の先生が、令和3年度から使用されている教科書の題材をもとに、どんな授業展開ができるかをご紹介します。

今号は、令和7年度版教科書を活用した、学年初めの授業開きの一例とポイントをご紹介します。

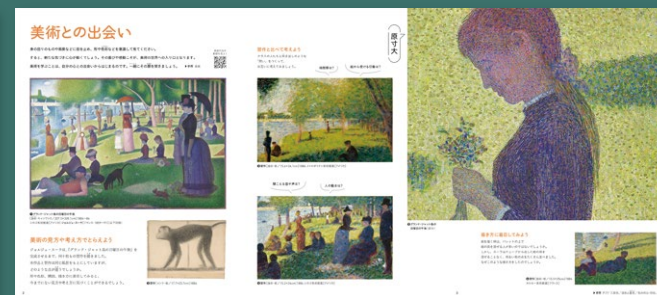


日文教科書は、発達の段階を考えた3分冊で編集しています。

各冊の表紙と巻頭オリエンテーションではテーマを一体化させ、学びが途切れないスムーズな授業開きを実現します。ここでは、その一例をご紹介します。

美術との出会い

1表紙、P.2-4「美術との出会い」



ねらい

形や色彩などの造形的な視点をもって見つめ直すことで、見方・考え方を広げる

展開

1 自分なりの見方や感じ方を大切にしながら表紙の「グランド・ジャット島の日曜日の午後」を鑑賞し、感じたことや印象などについて考える。

色鮮やかで明るい感じから、
日曜日の午後って感じが
伝わってくる。

絵の中で実験して
いるみたい。

2 P.2-4の本作品と習作を比較し、掲載されている問い「時間帯は？」「人の動きは？」などについて考え、色彩による時間の違い、形や筆のタッチなどの描き方による動きの表現などの造形的な視点に着目する。

3 生徒同士で問いをつくらたり原寸大の部分から表現方法に着目したりして鑑賞を深める。また、普段見慣れた風景でも、季節や時間帯、天候などによって見え方が異なることに気づき、意識してものを見たり造形的な視点で捉えたりすることで新たな発見や感じ方ができることを学ぶ。



自分になかった
新たな視点や考えに
出会えるね！



すぎさか ひろし
杉坂 洋嗣

令和7年度版中学校美術教科書著者。静岡県教育委員会を経て、現在、東京学芸大学附属竹早中学校教諭。

生徒と共に
学びの場

授業開きは、これから始まる美術の学びを方向付ける貴重な機会となります。各学年で共通して意識するのは、生徒が自分の思いや考えを安心して表現できる雰囲気を用意することです。そのために必要となるのは、受容的で共感的な学びの場を生徒と共につくりあげることです。授業は教師の意図的、計画的な営みですが、そこで大切にされるのは生徒の思いや考えです。

一人一人の生徒の意見やつぶやきを大切にし、そこから生まれる問いを、形や色彩、材料や光などの働きなどで捉え、美術ならではの造形的な視点から探求し、「新たな見方・考え方が広がったり、深まったりしていく美術の学びの楽しさ」を、実感を通して理解させていくことが重要です。



第三八回

誰もが知っている作品や、初めて出会うもの。いつもの見方はいったん忘れて、一緒に新しい見方を試してみよう。それまで見えなかった作品の一面が、見えてくるかもしれません。

かくして見る

作品を見る行為に積極性を与える、おそらく最も簡単な方法を紹介します。

あまりに分かりきったことに聞こえると思いますが、作品というのは、すでに完成しています。変化し続けて完成状態が無いタイプの作品や、未完の作品が展示されることもまれにあります。それはさておき、完成しているというこのことが、実は鑑賞体験にとって障壁になっている面があります。というのも、目の前にある作品は完成作であるからこそ、それが当たり前のものに見え、他の作品だったかもしれない可能性に考えをめぐらすことが難しいからです。どこに

作者のチャレンジがあつたのかなぜその色や形がそこにある必要があつたのか。漫然と見ているもそれはなかなか分かりませんし、そもそもそんな疑問自体が思い浮かばない。だってもう完成しているんだから。

そこで有効な見方のひとつが、作品を部分的に隠して見てみることです。どの作品でも構いませんが、例えばここに掲げた作品をご覧ください。図版の上に指や手をかざして色々な部分を隠してみると、ごく簡易的に、作品を分析する視点を導入することができます。

仮に、画面左半分の中央を帯状に縦断している、この絵の中で最も暗い部分を指で隠してしばらく眺めてから、再び画面全体を見てみるとうどうでしょう。この部分がいかにより印象を決定づけているのか、はっきりと分かります。その右側の、鮮や

かな水色の背景との境界を隠してみても、そこにどのような色を置いたらよいのか考えてみるのもいいでしょう。鮮やかな水色と紫がかつた帯とをつなぐエリアを、作者は実に慎重に塗っています。画中に繰り返されているS字状の形の中でひとときわかるい、左上の水色の部分や、右上のかすかな桃色、画面左下の黄土色などを、指先で覆ったり、その指を外したりして見てみてください。そのうちに自然と、なぜ作者はこのように描いたのだろうかと考えられるようになってくるのではないのでしょうか。い

わば、作品が見えてきます。作品を分析するというと大げさですが、視野の中に一挙に入ってきてしまう情報を、ちよつとした仕草で制限することで、作品と対話することができのです。画家がデッサン中に鉛筆をかざして描画対象の比率を測つ

たり、（今ではほとんど見かけなくなりましたが）写真家が指でフレームを作って画角をテストしたりするのと同様に、身近な道具や体を使って、拡散しがちな視野の焦点を定めるわけです。案外、人の目と脳は信用ならない。その信用ならなさを意識することもまた、鑑賞という行為の大きな意義です。

作品の部分を隠してみることは、いわば制作過程における作者の選択に、疑似的に参加することでもあります。この方法によって、何が重要なポイントになっているのか、何がこの作品を成立させているのか、作品から受ける印象はどこから来ているのかといった観点へと、考えが及ぶはず。まずは作品の中のいろんな部分を手当たり次第にマスクして、時間をかけて眺めてみてください。きつと思わぬところに発見がありますよ。

Work 84-P-1

[油彩・キャンヴァス／194×130cm] 1984年
東京国立近代美術館蔵
辰野登恵子
[長野県・1950～2014]
Photo: MOMAT/DNPartcom

成相 肇 なりあい・はじめ

東京国立近代美術館主任研究員。
一九七九年生まれ。府中市美術館学芸員・東京ステーションギャラリー学芸員を経て、二〇二一年から現職。
主な企画展に「石子順造の世界」「ディスカパー・ディスカパー・ジャパン」「パロディ・二重の声」など。著書に「芸術のわるさ」(かたばみ書房)。

〈今号のひと言〉……………
仕事の都合で終電を逃し、やむなくタクシーで帰宅しました。ほかに走っているのはタクシーだけ、信号と街灯とわずかな街の明かりがポツポツと灯る中をスピードに乗って走る感覚は、まるで夜空を飛んでいるようでした。体にも財布にも厳しいのもう勘弁ですが、気だるく車窓の外を眺めながら、年に一回くらいはいいかもしれないと思った次第です。



東京国立近代美術館展覧会情報
「所蔵作品展 MOMATコレクション」
「フェミニズムと映像表現」
(二〇二五年二月一日～六月十五日)



太陽の心
[石・木／13×5×5cm]
令和7年度版 中学校美術教科書
美術2・3下 p.21掲載

初めてこの抽象彫刻を見た時は、魅力的で不思議な形に目を奪われました。丁寧に磨き込まれた作品からは、ぎゅっと詰まった密度のある量感を感じます。きつと作者は、やすりで繰り返し磨き込み、触りながら感触を確かめて目指す質感を追求したのでしょう。真ん中がくびれた丸い二つの形はかわいらしくもあり、少し傾いて今にも動き出しそうです。そして上部の大小二つの穴の表現からは軽やかでリズムカルな印象を受けます。

また石と木の組み合わせも効果的です。それぞれの形と質感が響き合っています。

大きな広場にこの作品がモニュメントとして設置されていたら、とても気持ちのよい空間になることでしょう。イギリスの彫刻家、ヘンリー・ムーアを彷彿とさせますね。

タイトルは、なんと「太陽の心」。太陽系の惑星の中心で、太陽は何を思い、考えているのでしょうか？ 周りを従えてどっしりと構えているのかもしれませんが。必死にみんなを守っているようにも感じます。あるいは、宇宙の中では銀河系の一惑星でしかないという孤独や、寂しい気持ちもあったりして。

イメージした言葉を書き出し、スケッチを重ねることで、自分の構想が深まっていきます。現実には存在しないものを、様々な材料と道具を使って抽象彫刻に表すことを考えると、楽しくてワクワクしてきますね。

あなたはどっと思えますか？

小 | 中 | 高 |

形 forme No.335-2025

日文教育資料 [図画工作・美術]
令和7年(2025年)2月10日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33756

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690